

(1) 宮床堰 みやとせき

〈水不足の村〉

やく300年前、宮床は、今よりも高いところにだけ家がありました。水田が少なかったので、沢水でじゅうぶんでしたが、開こんされて田が多くなると、沢水だけではたりなくなってきました。

そこで、界さかいの東の山にある大谷地おおやちから水を引くことにしました。宮床の人たちは、毎年、大谷地の水を自分の方に引いたので、困こまってしまった界の人たちは、田島の代官所だいかんしょへうったえました。両方の間に水あらそいが起こり、何年も続きました。

今から200年くらい前、宮床に大火が起こり、その後も何度か大火がありました。水がたりなかったために、ほとんどの家がやけてしまいました。これらの大火で、宮床の人たちは、なんとかして伊南川から水を引きたいと考えました。

